

2022年6月15日

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

笹川スポーツ財団 スペシャルサイト『スポーツ 歴史の検証』 ——“ゼロから”の積み重ねによる社会変革——

第111回 谷 真海 氏

(東京パラリンピック・トライアスロン女子日本代表)

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する笹川スポーツ財団(所在地:東京都港区赤坂 理事長:渡邊一利)では、日本のスポーツの歴史を築かれてきた方々のインタビューをもとに、スポーツの価値や意義を検証し、あるべきスポーツの未来について考えるためのスペシャルサイト「スポーツ 歴史の検証」に掲載しています。

現在のテーマは「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」。昨夏に行われた2020年東京大会に尽力された方々が、それぞれの立場・視点で大会を振り返ります。

今回登場するのは、2020年東京大会含め、パラリンピックに4大会出場した谷 真海氏。開会式では日本選手団の旗手を務め、トライアスロンで現役復帰して出場した自国開催のパラリンピックを振り返ります。また、大会を終えた今後はどんなことが必要かだけではなく、パラ競技が現在抱えている問題、アスリートと社会の関係などにも触れています。ぜひご一読ください。

「自国開催だからこそ生まれた意識変化」 谷 真海 氏

【公開日】2022年6月15日(水)

【URL】https://www.ssf.or.jp/ssf_eyes/history/interview/111.html

スポーツ歴史の検証 インタビュー で検索ください!

【主な内容】幸せを感じた東京パラリンピックのレース/現役復帰に欠かせなかった家族、会社からの理解とサポート/紆余曲折だった東京パラリンピックまでの道のり/東京パラリンピックで感じた称賛と感謝/止めてはいけない自国開催で進んだ意識改革/東京パラリンピックが契機となった問題提起/子どもたちが「好き」をエネルギーにできる活動に注力



《プロフィール》

■谷 真海 (たに まみ) 氏

1982年生まれ。パラ陸上走り幅跳びで2004年アテネ、2008年北京、2012年ロンドンと3大会に連続出場。また、2013年IOC総会の最終プレゼンテーションでスピーチを行い、東京オリンピック・パラリンピックの招致に貢献した。一児の母となったのち現役復帰し、パラトライアスロンに転向。2021年同種目で東京パラリンピックに出場した。2017年より、尚美学園大学および日本福祉大学客員教授。

■佐野 慎輔 (さの しんすけ) 氏 / インタビュアー

1954年生まれ。産経新聞客員論説委員、笹川スポーツ財団理事/特別上席研究員。スポーツ記者を30年以上経験し、日本オリンピックアカデミー理事、野球殿堂競技者表彰委員を務める。

<スポーツ歴史の検証> 概要

【企画制作】公益財団法人笹川スポーツ財団

【後援】スポーツ庁、東京都、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会

【特別協力】株式会社アシックス